民生文教常任委員会研修報告書　　令和２年１月２１日・２２日

田中貞男

岡山県奈義町(子育て応援宣言について)　２１日

奈義町は明治・昭和の時は隣接村との合併で奈義町となった。平成の合併の時には、住民投票において合併をしないことの選択をして現在に至っている。

　平成２４年に「奈義町子育て応援宣言」を行い、施策の充実に努めた結果、平成２６年に合計特殊出生率２．８１を達成したことで全国的に有名になった。

奈義町になった時の人口約９,０００人が平成３１年で約５,９００人と人口減少の少子高齢化ではあるが、現在の人口を維持していこうと目標を掲げている。そのための対策「住宅施策・就労の場の確保施策・子育て支援施策」で取り組んでいる。

子育て応援宣言は、町を守り支えてきたお年寄りと共に大切な宝物。その子供が夢と希望を持ち健やかに育つことを目的に「家庭・地域・学校・行政みんなが手を携え地域全体で子育て」の宣言で取り組んでいる。

住宅施策は、若者向けに分譲地６地域に８７区画を計画し８２区画分譲済みである。紹介報奨制度(３０万円)、新築補助(町内２０万円、地元業者２０万円、県産木材１０万円)合計５０万円。

賃貸住宅集合４戸、戸建て２か所で１７棟を平成２３年から平成２７年に建設を行っている。２LDKと３LDKの家賃については、約５万円居住期間は１０年との事でした。また、平成２７年に雇用促進住宅(６０戸)を購入して、３万円から２２,０００円の賃貸にしている。

企業誘致の為に平成の初めに工業団地を造成して、現在１７社が操業している。また、隣接の津山市へ仕事に行っている。

子育て支援施策は、高校がないため交通費を一人年額９万円の３年間支給

出産祝金は、平成１６年から取り組み現行になったのは平成２８年から第１子１０万円、第２子１５万円、第３子２０万円、第４子３０万円、第５子４０万円。

高校までの医療費の内入院・通院の自己負担に係る分を町が負担。

ひとり親で中学校３年までの子に係る養育費５．４万円を支給し2子以降に2.7万円加算支給。

保育料については国基準の55％に軽減と第2子以後無料で第1子は高校生からカウント。

在宅で育児している手当を一人1万円交付を幼稚園入園まで。

育英金として、無利子で年額36万円貸付、卒業後市内居住は最大半額免除あり。予算的には、約１億２千３百万円である。

奈義町には、自衛隊の演習場がある。

島根県邑南町(日本一の子育て村構想について)２２日

邑南町は、平成１６年に２つの町と1つの村が合併した。

８年前に１２,０００人を切るようになって危機感を持った時から行政が中心に様々な事業の取り組みを行っていることによって２０１５年から人口が推計よりプラスに転じて来ている。

　医療については、公立の病院に産科・小児科を含んで９科あり麻酔・精神以外は常勤して安心できる医療体制が確立され、２４時間３６５日緊急受付を行い２０分以内にドクターへリの搬送が行われるとの事でした。

　中学生まで医療費無料、不妊治療に対して助成、妊婦一般検針や歯科検診無料などを行っている。年間約７０名の赤ちゃんが生まれているとの事でした。

　第２子以降の保育料無料や保育所の給食無料、子育て支援ポイント(子育てサービスを利用するだけでポイントがたまり町内商店で買い物。商工会とのタイアップあり)。

　就労に関しては、町内進出企業や新規就労等にたいしての支援をしている。

　定住や結婚についてコーディネーター等が相談に応じている。

　教育に関しては、県立高校(矢上)を存続さすために、職員２名と臨時１名を派遣して支援。補修事業の講師はインターネットを通して、東京の民間塾の現役東大生講師の事業を行う支援や保護者絵の寮・交通費の負担軽減支援を行っている。医療福祉従事者確保奨学金制度(専門知識習得)や農林業後継者基金(町内就労すると一部・全額免除あり)、町奨学金貸与制度。

　地域で子育てを実践し、住民が実感できる町にと取り組んでいる。平成２７年にはU・Iターン１００名で２０代から３０台女性は２６名となり、４割がIターンである。幼稚園はなく保育所で行い、学校は統廃合しないで、小学校８校(４８４人)の複式学級で行っているとの事でした。中学校は３校。

地域で子育てとして、田畑の法面の草刈りにおいてその地域に生まれた子供の名前の形の草を刈り残して祝っている。

　地域学校として１２の公民館単位において職員の配置(若い職員)をして各公民館のエリアによって様々な事業の取り組みを行っている。

　邑南町も奈義町も同じで地域で子育てとして住民が取り組んでいる。

研修をさせていただいて感じることは、東かがわ市の取り組んでいる事業内容と大きく変わるものではないが、地域ぐるみで子育て支援をしている事で安心して子供を産み育てていると感じたし、行政全体の関わりの充実感があると思った。